

おわりに

私は、小さなお子さんを持つ保護者の方にお話しする機会に、次のようなアドバイスをしています。それは、お二人目のお子さんが生まれた時、お一人目のお子さんだけに絵本の読み聞かせをする時間を持つということです。お一人目のお子さんにとって、育ててくれる人との関係は絶対のものです。それがある日突然壊れたら…。そのショックを和らげ、育ててくれる人との関係が壊れていないことを確認するのが、お一人目のお子さんだけへの絵本の読み聞かせです。その際、お二人目のお子さんをだっこしたままなどというのはいけません。それは、お一人目のお子さんに対して、「あなたより大切なものできたのよ!」と見せつけることになりかねません。お二人目のお子さんを、ベビーベッドに寝かせるなどして、できれば、別の部屋で読んであげましょう。もし、幼児期に最も愛する人を奪い合った心の傷を負ってしまったら、どうなるでしょう。私が本書の冒頭で述べた、絵本の読み聞かせで目指す「自分自身の命を愛し、他者の命を愛する」という心的状態になるのは難しいかもしれません。

さて、「自分自身の命を愛し、他者の命を愛する」これは、この世界が存在し、命のバトンが自分に手渡され、自分が他者とともに、今、生きている事に対する感謝の気持ちです。このことは決して愛におぼれて何も見えなくなることはありません。逆に、あらゆるものを愛しているからこそ、そこに潜む悪を鋭く見抜き、注意深く拒むことが出来るのだと思います。未来を生きる子どもたちには、ぜひそうなって欲しいと願っているのです。

最後に、絵本の読み聞かせ会の開催でお世話になった賀川豊彦記念館で目にした、賀川豊彦氏のことばを引用させていただきます。

子供は大人よりえらひ
次の時代は子供のものだ
子供が地上に天国を造る

その、小さなそして偉大な一歩として、絵本を読みましょう！

余郷裕次『絵本のひみつ』徳島新聞社
2010年7月29日初版発行